

2010年3月期第1四半期 決算概要

2009年7月29日
NECエレクトロニクス株式会社
代表取締役社長 山口 純史
<http://www.necel.com/ir/ja/>

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2010年3月期第1四半期の決算概要についてご説明させていただきます。

I. 2010年3月期 第1四半期 業績概要

- 半導体売上高は、想定を上回る実績
- 営業損益はほぼ想定通り

II. 2010年3月期 業績見通し

- 業績予想は据置き
- 固定費削減を着実に実行し、年間での「営業黒字化」目標を維持

III. ビジネス ハイライト

- 注力事業の進捗状況
- エコソリューション事業の推進

こちらが本日のご説明内容のサマリでございます。

まず、2010年3月期第1四半期の業績でございますが、半導体売上高は期初想定を若干上回る実績、営業損益は期初想定通りの結果となりました。

次に、2010年3月期の業績見通しでございますが、足元は期初想定を上回る水準で推移しておりますが、下期の見通しにつきましては依然不透明であり、期初の業績予想を据置いております。しかし、固定費削減施策を着実に実行し、当初の経営目標である年間での営業損益黒字化を維持いたします。

最後に、ビジネスハイライトとして注力分野の進捗状況等につきご説明致します。

I. 2010年3月期 第1四半期 業績概要

II. 2010年3月期 業績見通し

III. ビジネス ハイライト

それでは、スライドに沿ってご説明してまいります。

第1四半期 業績の概要

(単位:億円)	09/3期		10/3期		
	1Q, 6/30	4Q, 3/31	1Q, 6/30		
	実績	実績	実績	前年同期比	前四半期比
売上高	1,663	855	1,020	△643	+164
半導体売上	1,592	807	980	△611	+173
営業損益	17	△533	△209	△226	+324
税前損益	3	△692	△208	△211	+484
当期純損益 (当社株主に帰属)	△13	△608	△207	△194	+401

為替レート前提

1US\$=	103円	91円	98円	5円高	7円安
1ユーロ=	160円	120円	130円	30円高	10円安

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです
 注2:「当期純損益(当社株主に帰属)」は、2009年3月期までの「当期純損益」と同じ内容です(米国会計基準の変更によるもの)

NEC ELECTRONICS

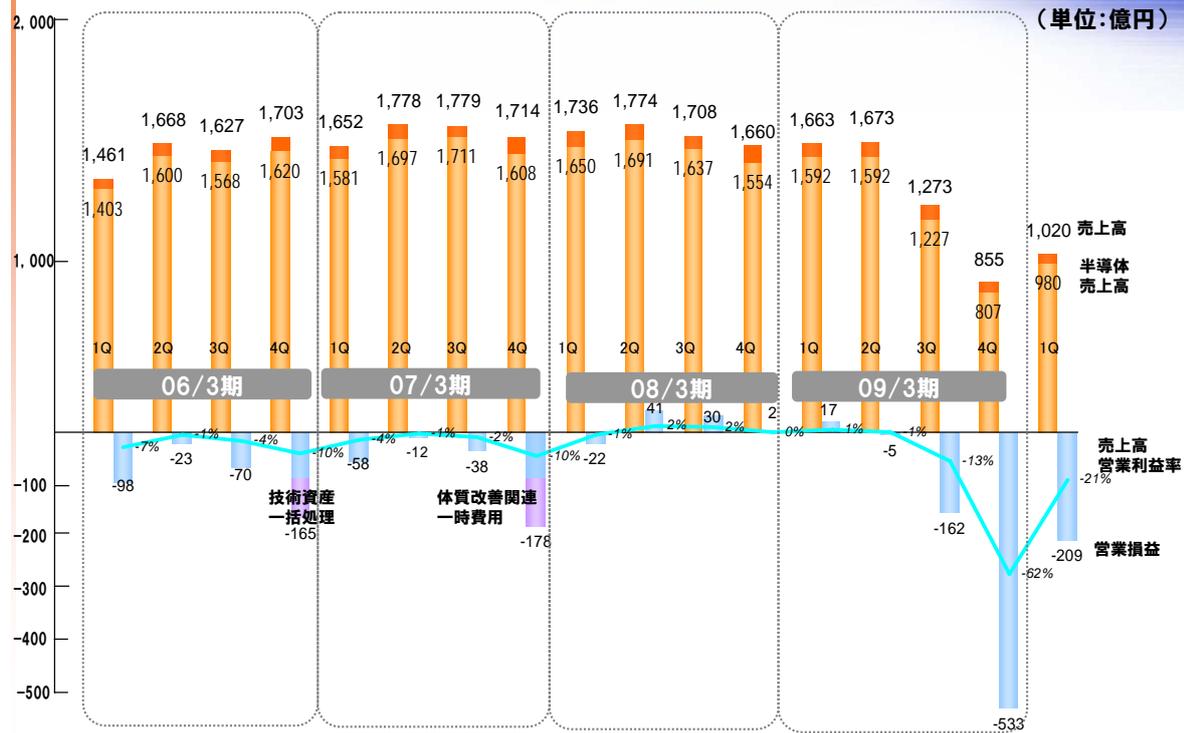
4

まず、第1四半期の実績の概要でございます。

半導体売上高は、前四半期比で173億円増収の980億円、また、営業損益は、前四半期比で324億円改善いたしました。209億円の損失となりました。

税前損益は208億円の損失、当期純損益は207億円の損失となりました。

四半期別業績推移

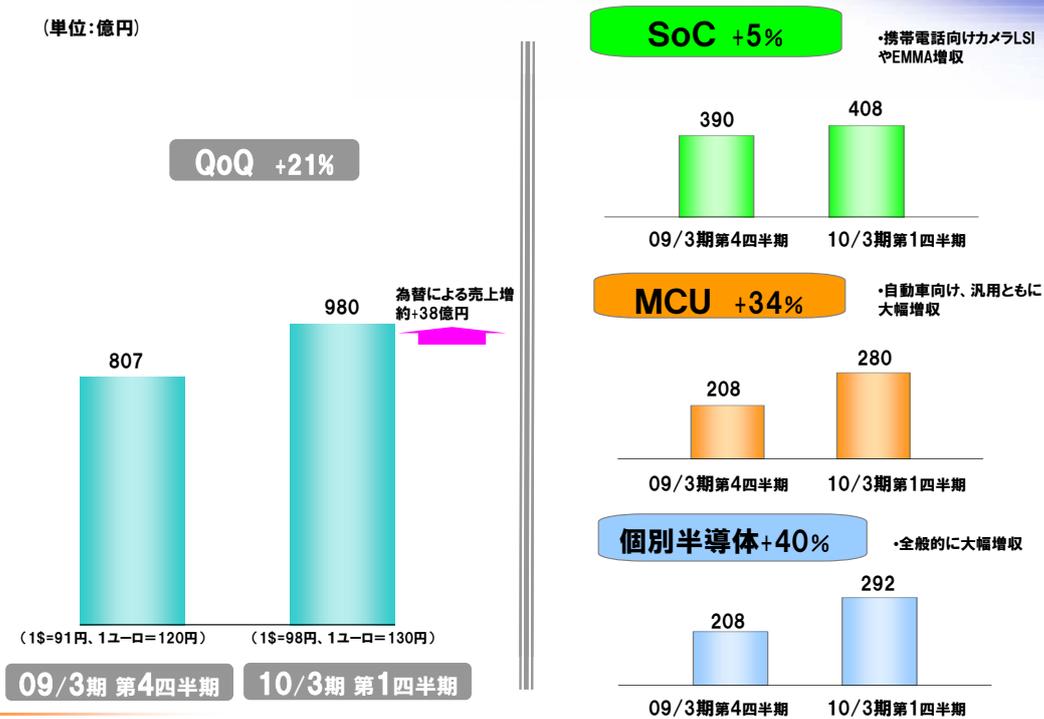


注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業利益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

次に、四半期ごとの業績推移でございますが、第1四半期は売上高・営業損益ともに前四半期比で大きく改善いたしました。過去の水準と比べ未だ低いレベルにあります。

第1四半期(4-6月期) 半導体売上高(前四半期比) NEC

(単位:億円)



NEC ELECTRONICS

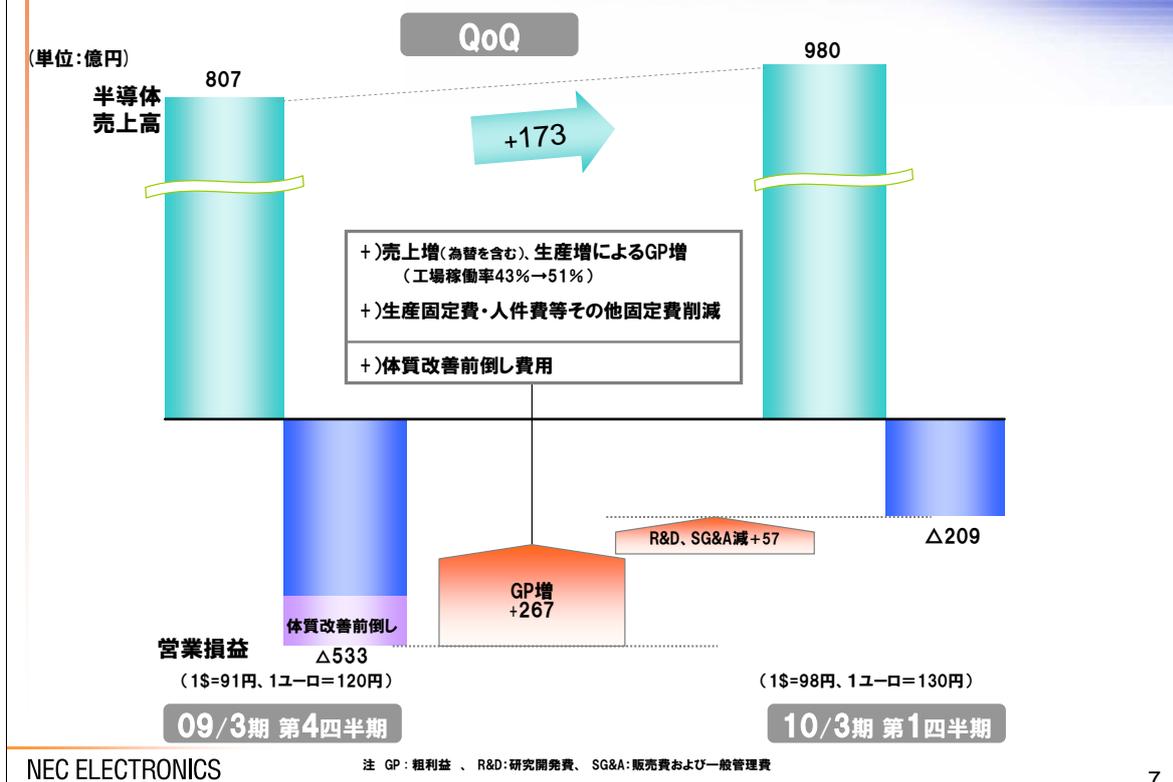
6

6ページは第1四半期の製品群別の半導体売上高についてお示しております。

前四半期と比較して、全ての製品群で増収となりました。

特にディスクリートを含む汎用製品やLCDドライバICの売上が拡大したことに加え、自動車向け半導体が想定以上に好調だったことなどにより、半導体売上高全体で21%の増収となりました。

第1四半期 営業損益の主な増減要因



7ページは、第1四半期の営業損益を前四半期と比較したものです。

この第1四半期は、売上増による利益増や大幅な固定費の削減効果に加え、前四半期に発生した体質改善費用が今期は発生しなかったことから、営業損益は324億円の改善となりました。

一方で、第4四半期においてウエハ投入を大きく絞るなどの生産調整を行なった影響もあり、第1四半期の工場稼働は在庫ペースで51%に留まりました。

バランスシート

NEC

(単位:億円)	08/6	09/3	09/6
現金および現金同等物	1,590	1,013	795
受取手形および売掛金	995	525	660
たな卸資産	795	632	584
有形固定資産	2,539	2,421	2,417
その他の資産	293	235	262
総資産	6,212	4,825	4,718
支払手形および買掛金	1,060	788	720
社債および借入金	1,173	1,169	1,360
その他の負債	1,629	1,547	1,514
負債	3,863	3,503	3,594
株主資本	2,301	1,281	1,083
非支配持分	48	41	40
負債および純資産合計	6,212	4,825	4,718
D/Eレシオ(グロス)	0.51倍	0.91倍	1.26倍
株主資本比率	37%	27%	23%

NEC ELECTRONICS

8

8ページは、バランスシートでございます。

6月末の現金および現金同等物は3月末比で218億円減少いたしました。しかし、現状の水準がボトムになると考えており、第2四半期以降は改善する見込みです。

たな卸資産は584億円となり、3月末比で減少いたしました。これは、前四半期に大規模な生産調整を行なったことにより、当四半期の急速な需要回復に対して一時的に生産が追いつかなかったことによるものです。

また、借入金の増加や当期純損失の計上などにより、DEレシオは1.26倍、株主資本比率は23%となりました。

キャッシュ・フロー

(単位：億円)	09/3期			10/3期
	1Q	4Q	年度計	1Q
営業活動による キャッシュ・フロー	42	△363	△69	△247
投資活動による キャッシュ・フロー	△109	△187	△493	△174
フリー・ キャッシュ・フロー	△67	△550	△562	△421
財務活動による キャッシュ・フロー	△15	△6	△43	+194

次にキャッシュ・フローでございます。

営業キャッシュ・フローにおいては、第1四半期の売上高が大きく改善したものの、その回収の多くは第2四半期となり、収支の改善は限定的でありました。

フリー・キャッシュ・フローは421億円の支出となりましたが、財務構造の改善のため借入等を行なった結果、先にお示しましたバランスシートのとおり6月末時点の現金および現金同等物は795億円となりました。

第2四半期以降は、損益の改善や売掛金の回収などにより、キャッシュフローが改善していく見込みでございます。

I. 2010年3月期 第1四半期 業績概要

II. 2010年3月期 業績見通し

III. ビジネス ハイライト

続きまして、2010年3月期の業績見通しについてご説明致します。

10/3期 業績予想

NEC

期初予想から変更なし。引き続き年間での営業黒字化を目指す

(単位：億円)

	10/3期					
	上期		下期		通期	
	予想	前年同期比	予想	前年同期比	予想	前期比
売上高	2,150	△1,186	2,650	+521	4,800	△665 △12.2%
半導体売上	2,050	△1,134	2,550	+516	4,600	△617 △11.8%
営業損益	△250	△262	250	+946	0	+684
税前提損益	△265	△265	190	+1,083	△75	+818
当期純損益 (当社株主に帰属)	△270	△251	180	+987	△90	+736

為替レート前提

1US\$=	95円	10円高	95円	1円高	95円	6円高
1ユーロ=	125円	38円高	125円	4円高	125円	21円高

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです

注2:「当期純損益(当社株主に帰属)」は、2009年3月期までの「当期純損益」と同じ内容です(米国会計基準の変更によるもの)

注3:予想値は2009年7月29日現在

NEC ELECTRONICS

11

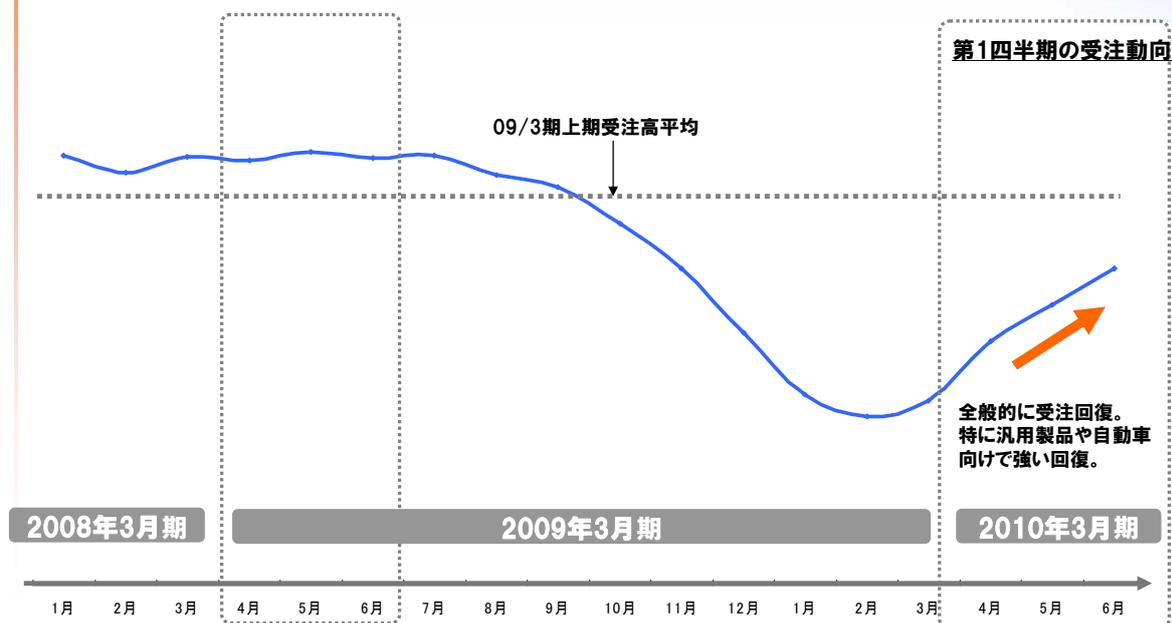
先にご説明した通り、第1四半期の売上高は期初想定を上回る水準となり、足元の回復も順調ではあるものの、下期見通しが依然不透明であるため、現時点で業績予想は上期・通期ともに期初予想を据置きといたしました。

当社は、今年度の固定費削減施策を着実に実行し、年間での営業損益黒字化を目指してまいります。

半導体受注高の推移

NEC

受注（3ヶ月移動平均）



NEC ELECTRONICS

（為替は便宜上受注月の当社売上計上レートを適用）

12

12ページは、当社の半導体受注高の推移を3カ月移動平均でお示したものです。

第1四半期の半導体受注高は、順調に回復しております。特にディスクリートなどの汎用製品や自動車向け半導体で、受注が大きく伸びました。

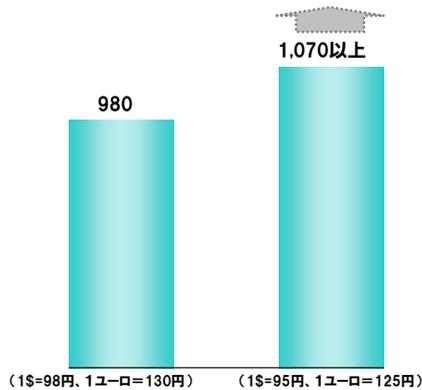
7月の受注においても、マイコン、ディスクリートを中心に順調に推移しておりますが、大きく改善した4月以降、単月ベースではほぼ横ばいの水準で推移しております。

第2四半期 売上高見通し

NEC

(単位:億円)

QoQ +9%強
(上期業績予想 2,050億円前提)

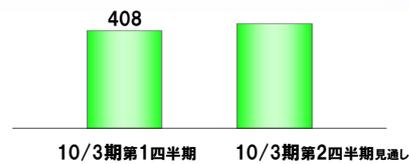


10/3期 第1四半期

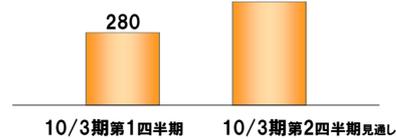
10/3期 第2四半期見通し

NEC ELECTRONICS

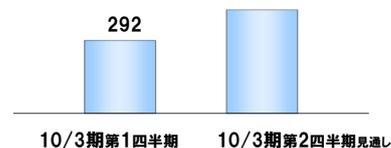
SoC 約+5%



MCU 約+20%



個別半導体 約+15%



13

13ページは第2四半期の製品群別の半導体売上高見通しについてお示ししています。

製品別では、

SoCに関しては、デジタルAV向けEMMAなどを中心に約5%の増収、MCUは自動車向け・汎用とも引き続き好調であり、約20%の増収を見込んでおります。個別半導体に関しても、全般的に需要は堅調であり、約15%の増収を見込んでおります。

当社は、上期業績予想を据置いておりますので、第2四半期の半導体売上は前四半期比で9%の増収ということになりますが、足元の受注が堅調であることなどにより、さらなる増収を確保したいと考えております。

第2四半期 営業損益の見通し

NEC

(単位: 億円)

QoQ

半導体
売上高

980

1,070以上

+ 売上増(為替を含む)、生産増によるGP増
(工場稼働率51%→約65%)

GP増
+170

△40

営業損益

△209

(1\$=98円、1ユーロ=130円)

10/3期 第1四半期

(1\$=95円、1ユーロ=125円)

10/3期 第2四半期

注 GP: 粗利益

NEC ELECTRONICS

14

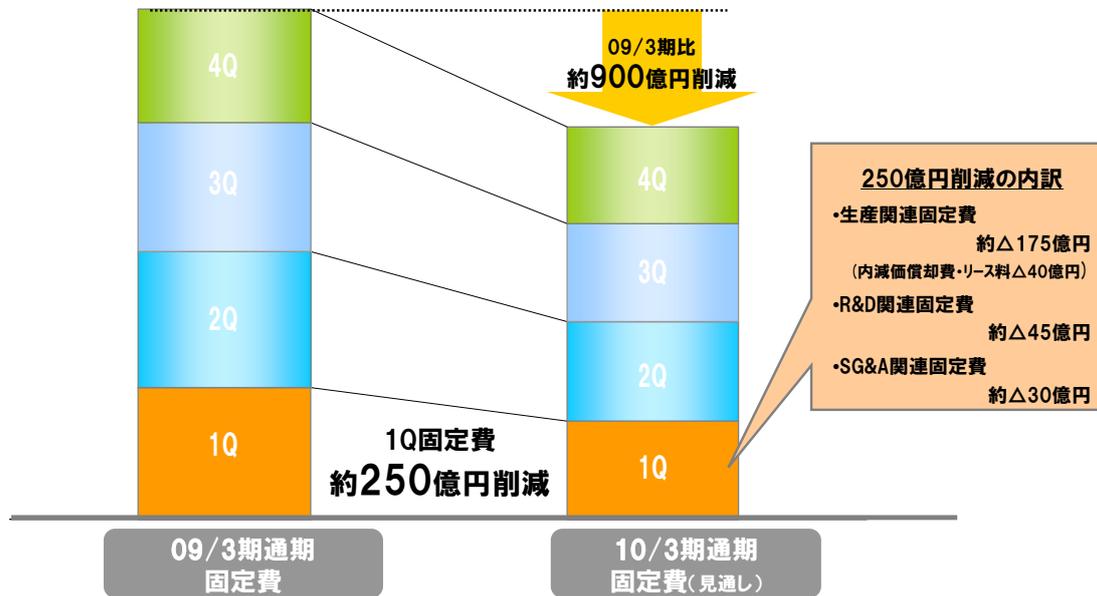
14ページは、第2四半期の営業損益を前四半期と比較したものです。

第2四半期においては、低い水準であった工場稼働が大きく改善し、生産増による利益増が見込まれます。一方で、固定費は第1四半期レベルを維持いたします。

これにより営業損益を大きく改善させ、上期業績見通しを達成する目標でございます。

900億円固定費削減の進捗

1Qで前年同期比約250億円の固定費削減



次に、業績改善の鍵となる固定費削減の進捗をご説明いたします。

第1四半期においては、生産関連固定費を中心に、前年同期比で約250億円削減いたしました。第2四半期においても同レベルの固定費削減を実行し、上期で約500億円の削減を目標といたします。

I. 2010年3月期 第1四半期 業績概要

II. 2010年3月期 業績見通し

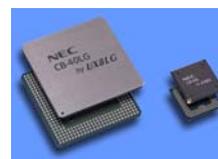
III. ビジネス ハイライト

最後に、ビジネス ハイライトでございます。

最先端プロセス商談拡大

■ 40/55ナノプロセス世代で商談拡大

- 40ナノプロセス製品は上期に量産開始
- 40/55ナノプロセス製品の新規受注は拡大中



40nmCBIC

EMMA ビジネス拡大

■ EMMA (Enhanced Multi-Media Architecture) ビジネスの拡大

- 累計出荷数1億個を突破、世界15カ国・80社に出荷
- ブルーレイ関連機器を中心に、CY08はシェアを大きく拡大



■ 採用アプリケーションの拡大

- 地上デジタル放送対応「簡易チューナー」向けに採用、本格立上げ
- PMP (Portable Media Player) / PND (Portable Navigation Device) 向けに採用、量産中



まず、当社の注力事業について進捗をご報告いたします。

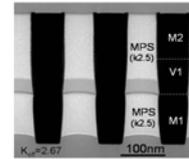
最先端プロセスにつきましては、他社に先駆けて受注活動を行っており、40ナノ/55ナノプロセス製品で商談が広がっております。上期中に40ナノプロセス製品の量産が始まるなど、実績も積みあがっております。

また、デジタルAVプラットフォーム‘EMMA’につきましても、累計出荷数が1億個を突破し、世界15カ国・80社に出荷するグローバル製品に成長いたしました。また、アプリケーションに関しましても、デジタルテレビ、ブルーレイ関連商品、セットトップボックスに加え、デジタル放送対応の簡易チューナーや、ポータブル・メディア・プレイヤー、ポータブル・ナビゲーション・デバイスなど、搭載機器が広がっております。

エコ事業への取り組み

■ 低電力LSIを実現する基盤技術開発

- 低電力LSIを実現するプロセス技術、デバイス技術を先端プロセスで開発



フル多孔質Low-k膜適用銅配線モジュール

■ EV(電気自動車)/HEV(ハイブリッドカー)向けソリューションを強化

- 自動車市場は、ハイブリッドカーを中心に回復基調
- グローバルに急成長が見込まれるEV/HEV市場に向けて、マイコン・パワー半導体を中心に戦略的ソリューションを提供

当社のEV/HEV向け事業領域



次に当社の今後の注力分野である、エコ事業に関してご説明いたします。

当社の強みである低消費電力技術を活かし、先端プロセス製品においても、より低電力を実現する技術開発に取り組んでおります。

また、当社の注力分野である自動車においても、昨今ハイブリッドカーや電気自動車が注目を浴びております。ハイブリッドカーにおいては、既にマイコンやディスクリットなどで実績はございますが、今後も更にエコカー向けの製品ラインナップを強化し、エコ市場で確固たる地位を築いてまいりたいと考えております。

このため、当社では新たにエコ事業に向けた新コンセプト、“エコソリューション”を掲げ、エコ市場に向けたソリューションを強化してまいります。

新概念 “エコソリューション”

デバイスでエコ

低電力、小型なエコLSI製品の提供
＜基盤技術例＞設計技術、プロセス、高耐圧、eDRAM



システムでエコ

セット/システムのエネルギー効率革新をもたらすソリューションの提供
＜応用技術例＞インバータ、スタンバイ、ネットワーク



エコ社会に向けて

新社会のシステムの早期構築、普及促進に貢献する半導体ソリューションの提供
＜対象分野例＞エコカー、新エネルギー分野等



19ページは、新概念である“エコソリューション”についてお示しております。

まず、「デバイスでエコ」として、当社が得意とする低消費電力技術や基盤技術を駆使し、低消費電力で小型な製品をグローバル市場に安く提供いたします。

また、「システムでエコ」として、当社の製品を使用することにより、お客様のシステムや製品のエネルギー効率化に貢献いたします。

最後に、エコカーや、スマートグリッドなど新たなエネルギー分野に向けて半導体ソリューションを提供し、エコ社会の実現に貢献してまいります。

NEC

NEC Electronics Corporation

(将来予測に関する注意)

本資料に記載されている当社および連結子会社(以下NECエレクトロニクスと総称します。)の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としては、(1)NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因があります。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

**2010年3月期第1四半期の決算概要のご説明は以上でございます。
本日は有難うございました。**

参考：分野別 半導体売上高

(単位:億円)

